



KIF UPDATES

公益財団法人かながわ国際交流財団

活動紹介記事などFacebook 抜粋版

www.kifjp.org/045-620-0011 2019年6月1日発行

KIF Facebookコラム Vol.7

かながわビギナーに、『外国人住民のためのお役立ち情報』

専務理事 水田 秀子



いよいよ4月1日本日、改正入管法が施行されますが、皆さんの地域に住み始める外国人に生活情報を伝える準備はできていますか？

5年前の4月1日、当財団の専務職に着任した際、「多文化共生事業」の柱の一つは「生活情報の発信です」との職員の説明を聞いて、それが主な仕事になり得るのだろうか、と感じたことを思い出します。当時使っていたのは殆どが紙媒体で、可愛らしいイラスト付きの、手に取りやすく工夫された多言語資料でしたが、これが本当に外国人の手に渡って役に立っているだろうかと疑問に思つたのです。

というのは、県庁在職中担当した「外国籍県民かながわ会議」で、多くの外国人の委員から「多言語の行政情報や生活情報はどこに行ったらもらえるのか、外国人は殆ど知らない」との意見をさんざん聞かされていたからでしょう。この小さな財団が、いくら良い資料を作っても、外国人が誰でも訪れる住民登録窓口のような、公的な窓口が協力してくれなければ、必要な情報は外国人の手には渡らないのです。当時すでに神奈川で暮らす外国人は増え、様々な国籍、出自、宗教、文化を持つ人との共生の必要性は語られていましたが、県庁で作った資料でも、市町村の窓口においてもらうことが精一杯、担当職員から言葉を添えて外国人に配ってもらうのは、とても難しかったのです。

現在、財団では、公的・生活情報のなかでも、とりわけ「子育て支援情報」に重点を置いて発信しています。行政の窓口だけでなく、小児科や産婦人科などの病院、保

健所や子育て支援センターなど現場の第一線で、外国人住民と接する職場の理解と協力を得て、情報提供を行っています。紙媒体だけでなく、SNSによる発信や、現場に出向いての直接的な情報提供、職員研修なども組み合わせることで、必要な情報が必要な人たちに確実に届いているという実感を持つようになりました。

表題の『外国人住民のためのお役立ち情報』は、神奈川県で生活するために役立つ情報をまとめた冊子で6言語に翻訳されています。これから、神奈川で新しい生活を始める外国の方々に特に知っておいていただきたい内容です。

以下のサイトからダウンロードできますので、お知り合いのかながわビギナー外国人住民の方にぜひお届けください。

<http://www.kifjp.org/shuppan/multi>
言語：やさしい日本語、中国語、タガログ語、ベトナム語、英語、スペイン語（※多言語資料は全て日本語併記）

また、冊子版（写真参照）を、これから外国人を受け入れる県内の企業や日本語学校などで必要な際は、以下の方法で無料配布します。

- 1) 返送用レター パックを送付いただき郵送
- 2) 多言語支援センターかながわの窓口にて手渡し是非ご活用ください。

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 13階 多言語支援センターかながわ

ジギヤン・クマル・タパ職員（グローバル人材育成グループ所属）の インタビューが毎日新聞（2019年4月26日朝刊）の「論点」に掲載されました！



ジギヤン・クマル・タパ

1979年、カトマンズ生まれ。2000年から日本に留学。横浜国立大博士課程を経て、かながわ国際交流財団職員（NGO支援担当）。04年に結成された「海外在住ネパール人協会日本支部」の中心的存在。ネパール大使館の公式通訳も務める。

日本で生活するネパール人を中心に組織された支援団体でアドバイザー役を引き受けている。日本国内にネパール語対応窓口は皆無のため、我々のような在住ネパール人ボランティアが中心となって互助的に相談などにのって、支え合っている。

現在、国内のネパール人は8万5321人で、国別の在留人数は第6位。10年前から8倍近くに増え、神奈川県だけでも5947人。東京や名古屋、福岡などの大都市圏で増加している在留資格を大別すると「留学」が2万8001人、カレー料理店などで働く調理師など「技能」が1万2716人で、その家族に与えられる「家族滞在」が2万3789人と、3つの在留資格に集中しているのが特徴だ。ベトナム人等に多い「技能実習生」は172人と少ない。

私が留学をしたころは、日本人の国際協力活動家などの交流を通して日本を知り、日本で学んでみたいと思う若い人が留学生の大半だった。現在の留学生は、留学と言えば聞こえはいいが、多くは「出稼ぎ」が主目的で、祖国へ仕送りをするための滞在だ。加えて高額の渡航経費の返済も重くのしかかる。ほとんどが日本語学校に通うが日本語の習得はおざなりになりがちで、専門学校や大学進学を経て就職する人はほんの一部。国に戻つても日系企業はほとんどないため、留学後は日本で働きたいと思う人がほとんどなのだが。

ネパール人に限らずなぜ「留学生」が増えるのか。日本人が働きたがらない時間帯に安い賃金でも、仕事の選択肢が少なくとも、ぜいたくを言わずに働く人たちが必要な社会があるからだ。さらには居酒屋の店員や宅配物の仕分け作業、新聞配達などを担う人たちが必要

とされ、借家人を充足したい不動産業があり、学生の数を集めねばならない教育産業などがあるからだろう。家族滞在者のほとんどは日本語を解する訓練をうける機会もないまま、ホテルのベッドメイクや弁当工場などの「単純労働」の仕事を掛け持ちしながら生活費を稼いでいる。こうした人たちを日本社会が便利に使っているのだ。

政府が進めている外国人労働者の受け入れは、基本的には企業で囲い込んでいる技能実習の資格変更を想定した「特定技能」で、日本在住のネパール人に多い留学生、調理人や家族滞在者の活用は考えられていない。

これから日本に入ってくる労働者が一定の日本語教育を受け日本人と同等に近い待遇を得られるのはいいことだ。しかし、国内にはすでに日本社会にじみ、日本語を解し税金も納めている相当数の外国人がいる。「できれば日本で働き続けたい」と願っている多くの学生や家族滞在の人たちを活用するという視点が、新制度には見えない。まずはこの層の人たちを労働者として活かすべきだろう。

一方で、今回の雇用政策の大転換は、日本社会が変わるための転機であるとも思う。私が働く横浜駅の西口には10軒近いコンビニが24時間営業していて、いずれも人手不足で外国人が働いている。けれども深夜の客はまばらだ。ここまで便利さが本当に必要なのだろうか。働き方改革が叫ばれている中、労働問題の解決を外国人に頼る前に、日本はもう一度、自分の足下の生活のあり様を見つめ直す必要があると思う。

新刊！支援者向けガイドブック

「外国人住民の妊娠から子育てを支えるガイドブック～母子保健・子育て支援でできる多文化共生の4つの力ギ」を発行しました。

かながわ国際交流財団では、日本に住む外国人母子向けの子育て情報を多言語で発信してきました。このたび産婦人科・小児科や母子保健・子育て支援を担当する行政機関、地域の支援者などにご利用いただけるガイドブックを発行しましたので、お知らせします。

『外国人住民の妊娠から子育てを支えるガイドブック

～母子保健・子育て支援でできる多文化共生の4つの力ギ』

体裁：B5版40ページ。全編カラー版

発行：公益財団法人かながわ国際交流財団

販売元：母子保健事業団

★妊娠・子育てをサポートするヒントをイラスト満載でわかりやすく紹介！

外国人住民対応のヒントを、「言語」「文化」「情報」「連携」の4つの力ギに整理し、実践例を含め、イラスト満載でわかりやすく紹介しています。

【立ち読み版】外国人住民の妊娠から子育てを支えるガイドブック

<http://www.kifjp.org/child/catalog01>

ガイドブックは下記のURLより入手できます。

【法人向け】母子保健事業団 <https://www.mcfh.co.jp>

【個人向け】本の楽育まんてん堂 <https://www.ecur.co.jp/>

かながわの取り組みを全国でお役立ていただければ幸いです



かながわ円卓会議シンポジウムを開催しました！

先週末、シンポジウム「外国人政策と多文化社会の未来～かながわと共に生きていくために～」を開催しました。

まず、鈴木江理子国士館大学教授から、これまでの外国人政策の特徴と多文化社会の今後について報告がありました。続いて、多文化共生などに関する活動をなさっている方から事例報告がなされ、それらを踏まえた上で会場との質疑応答を行いました。

外国人の社会参加や「多文化共生社会の望ましいありかた」等といった幅広い視点からの刺激的なお話は、参加者ひとりひとりが「自分事」として考えられるきっかけを与えてくれました。



*円卓会議について→http://www.kifjp.org/ace/round_table

*関連リンク（シンポジウムの感想が書かれています）

→NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事・土井佳彦さんのnote
<https://note.mu/doiyoshihiko/n/n074447bcdd69>

新学期の準備のために（教員・学校関係者向け）

もうすぐ新学期が始まりますね。イスラームの児童・生徒が入学・転入予定の学校に向けて新しい情報です！

このたび、イスラームの保護者と学校とのよりよい関係づくりのために、かながわ国際交流財団（KIF）は多言語シートを作成しました。

宗教上の配慮が必要な場面も多いため、KIFでは2017年にパンフレット『イスラームの子どもたちを理解するために』を発行し、食事、服装、お祈りなどについて紹介しました。

<http://www.kifjp.org/shuppan/guidebook>

今回作成したのは、その付随資料の5言語による「保護者と学校とのコミュニケーションシート」です。

一口にイスラームといっても、ご家庭によって考え方は大きく異なり、学校生活を安心して送るためには保護者

【インドネシア語／bahasa Indonesia】 Lembaran Pertanyaan Mengenai Kehidupan Sekolah Jepang <http://ur0.biz/OKv1>

【ウルドゥ語／وردہ】 <http://ur0.biz/vK1t>

【タミル語／தமிழ்】 ஜப்பானில் பள்ளி வாழ்க்கை பற்றி <http://ur0.biz/avl1>

【マレー語／Melayu】 Perihal persekolahan di Jepun <http://ur0.biz/jYIW>

【英語／English】 About School Life in Japan <http://ur0.biz/u0vR>



との意思疎通が欠かせません。

しかし、言語の違いから、給食や授業や行事への参加など学校生活の細かい部分の確認が難しい場合があります。

お知らせ

◆インターナショナルカフェ

「英語で学ぶオリンピック・パラリンピック～スポーツを通じてつながる世界と神奈川～」

2019年7月21日(日) 13:30-15:45

＜高校生対象、参加費無料、事前申込制、横浜で開催＞

<http://www.kifjp.org/nimp/cafe#ic2>

◆外国人住民子育て支援フォーラム2019

2019年8月24日（土） 13:00～16:30

＜支援者向け（母子保健の医療従事者・行政職員、子育て支援者、外国人支援者等）、参加費500円、事前申し込み制、横浜で開催＞

<http://www.kifjp.org/child/>

◆国連大学グローバル・セミナー第35回湘南セッション「グローバルな行動で 国際テロに立ち向かう」

2019年8月26日（月）～8月29日（木）

＜日本の大学に在籍する学部生・大学院生・留学生対象、参加費38,000円、事前申込制、湘南国際村（神奈川県三浦郡）で開催＞

<http://www.kifjp.org/nimp/global>